

熊本地震にて被災されました方々へ心よりお見舞い申し上げます



第5次福島復興支援



第66号
北海道
神道青年協議会
平成28年7月31日

震災当時、相馬太田神社は境内の灯籠が倒れたり、蔵の屋根の瓦が崩れ落ちたりなどの被害があつたが、海沿いから離れていたこともあり津波の被害はうけず、比較

先ず以て、あらためて先の東日本大震災により被災された方々にお見舞い申し上げるとともに、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り致します。
去る平成二十八年六月二十日と二十一日の二日間、福島県に於いて第五次復興支援活動が行われ、三橋会長をはじめ、道内各地より二十名が集まりました。私は今回が初参加であり、復興支援そのものも初めてであったので少しでも皆さんの力になれるようにと意気込んで臨みました。
一日目は午後一時半に仙台空港ロビーに各自集合し結団式を行いました。三橋会長の挨拶のもと士気を高め、我々はレンタカーに乗り相馬市の相馬太田神社に向かいました。相馬太田神社では福島県神道青年会の方々と合流し、正式参拝が行われました。

的被害も少なかったそうです。相馬太田神社佐藤宮司様は、「これから地鎮祭があり、満足に御挨拶も出来ずに申し訳ございません」と残念そうに仰っていたのが印象に残りました。境内を拝見し震災から五年が経過し復興に向けて確実に進んでいる印象を受けました。



初發神社参拝の様子

東日本大震災
第五次復興支援活動

今回案内していただいた初發神社田村欄宜様によると浪江町は現在、午前六時から午後八時の時間のみ帰還することが許されており、



植樹作業風景 (初發神社)

正式参拝をした後に、福島神青の方々案内をしていただき、浪江町の避難指定区域の視察に向かいました。車窓から見える風景は枯れた畑、今にも崩れそうな家屋、放射線量を示す電光掲示板、「ただいま徐染中」という看板、大量の汚染された土を入れたフレコンバッグなど震災の現実をまざまざと思い知らされました。



清掃活動の様子 (南相馬市 綿津見神社)

街の人の殆どが工事関係者のみで、土日には誰も居なくなるそうです。視察では、第一原発の三キロ手前まで行くことが出来ましたが、主要道路以外はバリケードで封鎖されており、その風景はやはり異様でした。先程の相馬太田神社で思ったことはごく一部の地域だと思いは知らされました。

その後ホテルにチェックインをし、福島神青と合同の懇親会を開催し、終始和やかに行われました。その中で田村様が「何時の日か当社の例祭で道神青協の方々に縁日を行っていただきたい」と仰っていらしたのがとても印象に残っています。また、少しずつではあるが復興に向けて進んではいるけれども、なかなか進まない現状を、目に涙を浮かべながら話す姿を見て少しでも力になれるように頑張ろうと誓いました。

二日目は午前に初發神社と諏訪神社で作業を行いました。最初に初發神社で植樹作業、境内清掃を行いました。

次に諏訪神社で参道の草むしりをしました。諏訪神社は高台にあり津波を受けることはありませんでしたが、地震の影響で社殿が倒壊した状態でした。近隣の住民はこの境内で一晩を過ごされたそうです。

午後は綿津見神社で境内の清掃作業を行いました。

ここは平成二十四年の支援活動時に道神青協で植樹をした場所で、この時植樹をした樹は順調に育っていました。どの場所も炎天下での活動にもかかわらず、皆さん黙々と作業を行っていました。

無事怪我もなく午後三時半頃に作業を終え仙台駅で解散しました。完全に復興するには我々の子供が遠くなるような長い年月を要すると思います。そのため我々は身

を行っていただきたい」と仰っていらしたのがとても印象に残っています。また、少しずつではあるが復興に向けて進んではいるけれども、なかなか進まない現状を、目に涙を浮かべながら話す姿を見て少しでも力になれるように頑張ろうと誓いました。

二日目は午前に初發神社と諏訪神社で作業を行いました。最初に初發神社で植樹作業、境内清掃を行いました。

次に諏訪神社で参道の草むしりをしました。諏訪神社は高台にあり津波を受けることはありませんでしたが、地震の影響で社殿が倒壊した状態でした。近隣の住民はこの境内で一晩を過ごされたそうです。

午後は綿津見神社で境内の清掃作業を行いました。

ここは平成二十四年の支援活動時に道神青協で植樹をした場所で、この時植樹をした樹は順調に育っていました。どの場所も炎天下での活動にもかかわらず、皆さん黙々と作業を行っていました。

無事怪我もなく午後三時半頃に作業を終え仙台駅で解散しました。完全に復興するには我々の子供が遠くなるような長い年月を要すると思います。そのため我々は身



未だ倒壊したままの御社殿 (双葉町 諏訪神社)

近な人々に伝えていくことが大切だと感じました。また、それだけではなく手を差し伸べることももちろん大事です。機会があればまた復興支援に参加したいと思っています。

最後に今回この機会を設けてくださいました福島神青、道神青協の皆様には厚く御礼申し上げます。

樽前山神社 出仕
五十嵐 直貴

北海道神道青年協議会 平成二十八年度定例総会を開催

去る平成二十八年四月六日、北海道神社庁二階研修室に於いて、北海道神道青年協議会の平成二十八年度定例総会が、全道より会員五十名出席と七十四名の委任状を得て、開催されました。

出席者一同による神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き、三橋会長と御来賓である神社庁副庁長芦原高穂様よりご挨拶を頂戴しました。



三橋会長挨拶

開始に、根室青年神職会前田様
会員が議長
に選出され
た後、議事
の審議に入
りました。
各議題、担
当者から
の説明の
下、議事は
滞りなく進
行し、満場
一致で採決
されました。
その後、そ
の他として
単体会毎の
事業報告が
行われまし
た。例年書
面での報告
でありまし

たが、本年は会毎に時間が設けられ、活動のプレゼンテーションが行われました。各会の独自性・地域性のある活動が写真等を提示しながら行われ、相互に今後の活動の参考となる意義ある時間となりました。

議事終了後、勉強会として狩野顧問により沖縄県での遺骨収集の現状についてご講演頂きました。靖国神社や護国神社への国会議員や知事を始めとした、公職者の戦争への向き合い方から見た、現在の我が国の戦争認識の実情や、沖縄で実際に行われた遺骨収集に参加された実体験に基づいた、沖縄遺骨収集の実情について御教示戴き、決して風化させてはいけない戦争の記憶に対して、日本人として神道人としての在り方について改めて考え



御来賓 北海道神社庁副庁長芦原高穂様

させられました。

続いて、「憲法改正ドキュメンタリー『世界は変わった日本の憲法は?』」が上映されました。

現行法の成立の過程と、現状発生している事態と法との矛盾、現行法の不備について述べられているものでした。昨今、中国の領海侵犯や北朝鮮問題等、何かと騒がしい御時世、現状に適合し、かつ日本の国体や風土、文化に即した法の必要性を強く認識させられるものでありました。

総会終了後、懇親会が行われま
した。多数の諸先輩方のご臨席を
賜り、貴重なお話を多数頂戴し、
また会員間でも積極的な意見交換
が行われ、盛会のうちに終了しま
した。

新琴似神社
権禰宜 間宮 康仁



沖縄県遺骨収集の現状について説明する狩野顧問

平成28年度歳入歳出予算書

1、一般会計

[収入の部]		(単位：円)			
科 目	予算額	前年予算額	増 減	備 考	
1、会 費	810,000	820,000	-10,000	5千×162名	
2、協 賛 金	1,200,000	1,200,000	0	本年度協賛金	
3、助 成 金	230,000	230,000	0	神社庁20万・神青協3万	
4、雑 収 入	25,879	24,000	1,879	利息・祝儀他	
5、繰 越 金	747,121	492,000	255,121	前年度より	
6、繰 入 金	0	0	0		
合 計	3,013,000	2,766,000	247,000		

[支出の部]		(単位：円)			
科 目	予算額	前年予算額	増 減	備 考	
1、神 事 費	30,000	30,000	0	玉串料(道護国・十勝支部内神社ほか)	
2、負 担 金	326,000	329,000	-3,000	会員購置金203千(15千×162名)、地区購置金3千、年賀互礼広告3千、日本会議北海道本部3万	
3、事務通信費	300,000	300,000	0	事務郵便料・事務所費	
4、会 議 費	300,000	300,000	0		
①会議諸費	150,000	150,000	0		
②役員旅費	150,000	150,000	0	役員交通費補助、打切支出	
5、活 動 費	1,500,000	1,500,000	0		
①事業費	700,000	700,000	0	研修会30万・スポーツ大会・新春研修会ほか	
②広 報 費	300,000	300,000	0	通信作成費・通信送料・ホームページ維持費	
③神青協関係費	500,000	500,000	0	神青協出向補助50万打切支出	
6、慶 弔 費	50,000	50,000	0	祝儀・弔電・葬儀玉串料	
7、会長交際費	70,000	70,000	0	会長交際費補助、打切支出	
8、雑 費	27,000	27,000	0		
9、積 立 金	350,000	100,000	250,000	本年度積立金	
10、予 備 費	60,000	60,000	0		
合 計	3,013,000	2,766,000	247,000		

平成27年度 一般会計歳入歳出決算書

1、歳入金額 3,429,549円也

1、歳出金額 2,682,428円也 自 平成27年4月 1日
1、差引残額 747,121円也 至 平成28年3月31日

[収入の部]		(単位：円)			
科 目	決算額	予算額	増 減	備 考	
1、会 費	810,000	820,000	-10,000	5千×162名	
2、協 賛 金	1,255,000	1,200,000	55,000	本年度協賛金	
3、助 成 金	230,000	230,000	0	神社庁20万・神青協3万	
4、雑 収 入	642,549	24,000	618,549	利息・祝儀他	
5、繰 越 金	492,000	492,000	0	前年度より	
6、繰 入 金	0	0	0		
合 計	3,429,549	2,766,000	663,549		

[支出の部]		(単位：円)			
科 目	決算額	予算額	増 減	備 考	
1、神 事 費	30,000	30,000	0	玉串料(北海道神宮・道護国神社・函館八幡宮)	
2、負 担 金	326,000	329,000	-3,000	会員購置金203千(15千×162名)、地区購置金5万、年賀互礼広告3千、日本会議北海道本部3万	
3、事務通信費	281,205	300,000	-18,795	事務郵便料・事務所費	
4、会 議 費	298,728	300,000	-1,272		
①会議諸費	148,728	150,000	-1,272		
②役員旅費	150,000	150,000	0	役員交通費補助、打切支出	
5、活 動 費	1,535,903	1,500,000	35,903		
①事業費	730,000	700,000	30,000	研修会30万・教化研修費・定例総会・英霊顕彰事業ほか	
②広 報 費	305,903	300,000	5,903	通信作成費・送料・ホームページ維持費	
③神青協関係費	500,000	500,000	0	神青協出向補助50万、打切支出	
6、慶 弔 費	40,592	50,000	-9,408	祝儀・弔電・葬儀玉串料	
7、会長交際費	70,000	70,000	0	会長交際費補助、打切支出	
8、雑 費	0	27,000	-27,000		
9、積 立 金	100,000	100,000	0	本年度積立金	
10、予 備 費	0	60,000	-60,000		
合 計	2,682,428	2,766,000	-83,572		

神道青年全国協議会

第六十八回 定例総会

去る四月二十六日、神道青年全国協議会第六十八回定例総会が神社本庁大講堂にて開催された。総会に先立ち、この度の平成二十八年熊本地震に於いて亡くなられた方々に黙祷が捧げられた。

開会式では、長友安隆会長、田中恆清神社本庁総長が挨拶され、その後定例表彰式が行われた。定例表彰では、北海道より札幌支部青年神職文月会で行われている「神話劇」が事業優秀賞を受賞し表彰された。

議事に入り、昨年度の会務報告、一般会計決算などが上程され、長友会長また各担当者より説明され原案通り承認された。また、本年度活動方針並びに一般会計予算書が上程されこちらも原案通り承認された。

平成二十八年度の活動として、被災地と被災神社の早期復興を願い支援活動を展開すること、また神武天皇が崩御されてより二千六百年の節目の年にあたることから「神武天皇二千六百年記念事業」が展開される旨も報告された。



定例表彰式

総会終了後、一日も早い復興に向け、会員の大同団結と情報共有を図るべく「熊本地震対策会議」が開催された。会議では、地震発生後の神青協及び神道青年九州地区協議会の対応報告、また、被災地現状報告として、熊本県神道青年会内村会長、大分県神道青年会妻垣事務局長より、現地での被害状況の報告がなされた。終わりに、長友会長より「全国の会員と情報を共有し、早い段階で第一次支援隊を結成し支援活動を実施していく。九州地区の受け入れ態勢が整い次第、全国の単位会の協力をお願いしたい」と述べられ、全日程を終了した。

豊平神社 禰宜
三橋 昌功



熊本地震対策会議の様子



定例総会の様子

神道青年全国協議会 第一次熊本復興支援活動

木山神宮の被害状況は、本殿、拜殿、楼門、鳥居、灯籠、石垣に至るまで全壊しており、宮司様の住宅並びに社務所は大きく傾き、ガラスが割れ、倒壊の危険が極めて高い状況でありました。

まずは参拝、黙祷し、作業に入りました。作業は人員を三つのグループに分け、一団は拜殿の解体、二団は楼門の解体、三団は社務所内の撤去・整理を担当いたしました。

拜殿、楼門は重機で破壊した後、チェーンソーで裁断、灯籠・石垣の瓦礫と共に2トントラック四台で搬出。社務所では散らばるガラスや瓦礫の破片に注意しながら、破損を免れた祭器具や装束、その他家財道具等を搬出いたしました。

翌十三日は、木山神宮の作業に続き、御船町高野菅原神社並びに宮崎神社での作業となり、御遷座の補助及び瓦礫撤去を行いました。

晴天で気温の高い中、危険の伴う復興支援活動でありましたが、事故やけが人も出ず、速やかに作業が進み、瓦礫が散乱する境内も

すっかり綺麗になり、大きな成果を得た復興活動でありました。その後、第二次・第三次と復興支援活動は今も続いておりますが、被災地域並びに被災神社が元の平穏な状況へ戻るためにはまだまだ時間が必要です。このような時



社殿修復作業の様子



倒壊した拜殿

そ全国の友垣の力を結集し、難局を共に超えて行かねばなりません。北海道と九州、距離こそ離れておりますが心は常に近くに寄り添い、復興に向けた支援活動を今後も継続して行っていく必要性を実感いたしました。

北見神社 禰宜

村井 一介



復興支援における集合写真

神道青年全国協議会
**北方領土の碑現状視察並びに
 清掃奉仕・修祓式**

平成二十八年五月十七日、神道青年全国協議会（以下神青協）北方領土の碑現状視察並びに清掃奉仕・修祓式が根室の地にて行われました。本事業は、我が国固有の



金刀比羅神社にて

領土である「歯舞・色丹・国後・択捉」の北方四島の早期返還を願い、昭和五十三年に創立三十周年記念事業として、全国の会員が持ち寄った石を礎石として建立した「北方領土の碑」に対し、二年に

一度清掃奉仕の他、周年毎に「早期返還祈願祭」を斎行する活動の一環として行われました。今回は、全国各地より神青協役員、事業委員、次世代委員、他神青協会員、本庁職員など多くの参加者が集まり、北海道からは神青協役員として三橋会長、村井副会長、神青協事業委員として菊池理事、また道神青協より三橋副会長、枝廣副会長が参加致しました。



修祓式の様子



清掃奉仕の様子

金刀比羅神社にて正式参拝を致しました。神青協役員以下参加者が参列し、神青協長友会長が玉串拝礼されました。参拝後、金刀比羅神社前田康宮司様より北方領土に鎮座されていた神社について等のお話を頂き、「北方領土問題は常に存在する。次の世代へ引き継いでいって頂きたい。」とお言葉を戴きました。

次に、金刀比羅神社を後にしてバスで納沙布岬へと向かい、長友会長はじめ一同で北方領土の碑の敷地内を清掃奉仕した後、北方領土の碑の前にて修祓式を行いました。修祓式では道神青協より三橋会長が祓主を務めました。最後に北方領土返還実現への固い決意の象徴として建立されたモニュメン

トである「四島のかげ橋」にて北方領土に向かい参拝し、モニュメントに隣接する北方領土記念館にて北方領土の現状の説明を受けながら、記念館の中を参加者が興味深く見て回りました。

この活動・運動への参加を通して、全国各地の青年神職が北方領土返還に対する意識を高めて頂くとともに、各地に返還への強い想いを持ち帰って伝播して頂くことで、日本固有の領土である北方領土の早期返還実現へと繋がることを切に願います。

蔽島神社 榎瀬宣

菊池 友亨



三橋会長をはじめとする道神青協の役員

神道青年全国協議会
 神武天皇二千六百年記念事業
国家安寧祈願祭

去る平成二十八年六月七日神武天皇が崩御され二千六百年の本年、橿原神宮に於いて国家安寧祈願祭が斎行された。

各都道府県より、二名の奉仕者が募られ、北海道より後藤会員と私が奉仕をさせて頂き、神青協役員として、三橋会長、村井副会長が参列をした。

六月七日正午に橿原神宮に集合し、神武天皇陵を参拝、橿原神宮にて正式参拝を行った。その後、改服をし、祭典が滞り無きよう習礼を行った。

祭典は久保田宮司様が斎主を奉仕され副斎主以下祭員が橿原神宮職員を含め、百名を越える人数となり、外拝殿の左右を臨時の神饌所として回廊を通し、二座に神饌を伝供した。後藤会員は右側四十の手長、私は右側四十二の手長を奉仕した。

この国家安寧祈願祭は、前回は二十六年前の皇紀二千六百五十年を祝し行われた。前回の祭典は前日が大雨であったが、翌日は素晴らしい晴天の中行われたそうであ



国家安寧祈願祭の様子

る。今回も前日は大雨となったが、祭典当日は晴れ渡る空を見る事が出来た。百人を超えた神職の祈りの力が届き、大神様の御神徳を仰いだのであろうと感じた。次回は二十四年後の皇紀二千七百年を祝し行われる予定である。しかしな

がら、現代の若者はどれくらいの人が皇紀という言葉の意味を理解しているだろうか。このままでは、近い将来神職ですらその言葉の説明が出来ない状況になりかねないと思える。我々は神職として、この国に生まれた者として、国の始まりをもっと理解しなければならぬ。次回の皇紀二千七百年の国家安寧祈願祭が今回以上に厳粛で盛大に行われる事を祈る次第である。

最後に、今回忍び事とは言え、国家の安寧を祈る為に、全国から集った会員と共に過ごした時間は大変貴重なものであった。特に祭典は自分の神職人生で、忘れられない瞬間となったのは申すまでもなく、日本の始まりと称する橿原神宮の大前にて奉仕が出来た事はこの上無き喜びであった。あの日の緊張感や汗、音、匂い、五感で感じた全てを忘れる事なく、日々の奉仕に活かしたいと感じた次第である。

諏訪神社 禰宜

北方 宏和



国家安寧祈願祭 集合写真

新入会員紹介

① 氏名
 ② 生年月日
 ③ 単体会名
 ④ 奉務神社・職名
 ⑤ 趣味・特技
 ⑥ 抱負



① 五十嵐 直貴
 昭和62年12月10日
 胆振青年神職会
 樽前山神社・出仕
 強いて言うならポウリン
 グホルモン
 頑張ります!!



① 濱村 康公
 昭和59年10月28日
 渡島神道青年会
 厳島神社・欄宜
 神職としてまだまだ未熟
 ですが御指導、ご鞭撻の
 ほど宜しくお願い致しま
 す。



① 種田 真澄
 平成元年10月7日
 渡島神道青年会
 有川大神宮・欄宜
 音楽鑑賞
 常に学びを忘れず御奉仕
 していきたいと思ひます。



① 伊部 宣比古
 昭和60年5月28日
 渡島神道青年会
 大山祇神社・欄宜
 釣り・バスケ
 若輩者でございますがゆ
 え、諸先輩方にはご迷惑
 をお掛けすることも多々
 あるかと存じますが、
 ご指導ご鞭撻のほど、ど
 うぞ宜しくお願い致しま
 す。



① 熊谷 晃一
 昭和62年7月15日
 釧路管内神社青年会
 霧多布神社・欄宜
 映画鑑賞・書道
 まだまだ未熟ではありま
 すが、宜しくお願いいた
 します。



① 谷内 俊介
 平成7年10月15日
 釧路管内神社青年会
 鳥取神社・権欄宜
 聖地巡礼・料理
 未熟者ですが、一生懸命
 奉仕し皆様のお役に立て
 るよう頑張りたいと思ひ
 ます。



① 吉田 光臣
 平成6年1月23日
 札幌支部青年神職文月会
 北海道神宮・出仕
 読書・映画鑑賞
 一日も早く神職として御
 奉仕が出来るよう努力し
 て参りますので宜しくお
 願い致します。



① 門 辰弥
 平成8年2月16日
 札幌支部青年神職文月会
 西野神社・出仕
 空手・音楽鑑賞
 日々努力して神明奉仕に
 務めて参りますので御指
 導の程宜しくお願い致し
 ます。



① 渡部 陽司
 昭和62年4月9日
 十勝青年神職会
 帯広神社・権欄宜
 釣り・旅行
 一日一日を大切に、心を
 込めて神明奉仕に励んで
 参る所存でございます。
 何卒宜しくお願い致しま
 す。



① 玉置 彰彦
 昭和50年9月10日
 後志神道神職会
 狩太神社・欄宜
 登山・読書
 斯界の一助になれる様頑
 張ります。
 宜しくお願い致します。

北海道神道青年協議会新規事業品 「北海道の御朱印帳」のご案内

この度、北海道神道青年協議会では千島桜が織り込まれた「北海道の御朱印帳」を謹製致しました。

付属冊子「北海道の神社名簿」も製作し、参拝の手引きとして御活用下さい。

北海道の御朱印帳（北海道の神社名簿、ビニールカバー付き）

頒価 一〇〇〇円（送料別）

詳しくは道神青協事務局まで



御朱印帳

編集後記

道神青協通信第六十八号発行に際しまして社務御多忙の中、原稿を作成し御寄稿頂きました会員の皆様、編集の御協力を頂きました皆様に厚く御礼を申し上げます。

道神青協定時総会を終え、三橋体制も残すところ一年を切り活動して参りました。本年、熊本地震という大きな災害が日本に起こりました。お亡くなりになられました方々のご冥福、被災された皆様のご無事をお祈り申し上げますと共に、東北大震災に続き我々が人々の一助となる様活動して参りたいと考えております。

道神青協活動をより一層活性化する為に、諸先輩関係各位の皆様より更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。（山根）

題字『道神青』について

本通信は、平成四年二月一日創刊に当たり、当時の中野尹亮北海道神社庁々長に御揮毫戴いたものです。

北海道神道青年協議会事務局

諏訪神社社務所内

電話〇一一七一一〇九六〇

FAX〇一一七四一一五四三〇

E-Mail info@doshinsei.jp